

### 第 3 回定例教育委員会 会議録

開催月日 令和4年5月25日（水）

開催時間 午後 3 時 00 分から 午後 4 時 10 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 手島 俊樹  
教育長職務代理者 佐藤 喜美子  
教育長職務代理者 岡部 和子  
委員 松坂 浩志、小澤 幸子

出席職員 教育次長 降旗 友宏  
教育監 萩原 章司  
教育監事 市川 敏也  
理事 藤原 鉄也  
次長（総務課長） 河野 公紀  
教育企画室長 望月 勝一  
福利給与課長 田草川 耕  
学校施設課長 古屋 ひとみ  
義務教育課長 秋山 克也  
高校教育課長 高見澤 圭一  
特別支援教育・児童生徒支援課長 鷹野 美香  
生涯学習課長 成島 仁  
保健体育課長 金井 哲也  
総務課課長補佐 前島 宏文  
総務課主査 新海 佐貴子  
総務課主事 数野 浩己

教育企画室 室長補佐 加藤 忠  
主 幹 東 一孝  
主 査 高戸 恵  
高校教育課 副主幹・指導主事 笠井 寛仁  
特別支援教育・児童生徒支援課 主幹・指導主事 山下 英志

傍聴人 3 名

報道 1 名

#### 会議要旨

##### 〔 教育長開会宣言 〕

長澤委員から都合により会議を欠席する旨の届け出があった。

#### 1 議 案

第 12 号 令和 5 年度山梨県公立高等学校入学者選抜の基本事項について

〔説明〕 教育企画室

佐藤委員

今年度の基本事項について同意いたします。  
基本事項の検討が5回行われていたということなんですけれど、今後もう少し先を見据えた検討を早め早めに行ってほしいと思います。例えば全国募集で、3回目になるというお話なんですけれど、5校で行われていて、主に県外の生徒はスポーツ関係ということをお聞きしましたが、高校の学びの特色や魅力ある高校の学びを求めて他県から山梨に来るようになるというのを願っています。

佐藤委員 募集定員外の募集なので、今後の見通しを検討していただければと思います。県内の募集においても同様なことを期待しています。特に前期の中で個性表現や特色ある入試が年々増えていると思いますが、今後の広がりを期待したいと思います。

それからもう1点。選抜制度に関わって、定時制課程の再募集や通信制で2回実施される再募集、再々募集のことです。これは願いにも近い要望なんですけれど、ここに出願してくる生徒は恐らく何らかの特別な配慮を必要とする生徒だと思われるので、義務教育が終わって、いよいよ旅立ちの15の春に、少なくとも出願したということは進学のがちがあつた、あるということ想像します。このことについて、今年3月に5人ほど不合格だつたとお聞きしたので、様子を聞かせていただいたところ、不合格の理由として、それ相応の事情があることがよく理解できました。中学校側も恐らく大変な苦勞をして育ててきているんだらうとも思いました。これはこの基本事項の中に書くことではないと思うんですけれど、個々の生徒について、学校長を通して高校側に何らかの相談を是非するように、何らかの折にそういう話をさせていただけたらなと思います。当然中学校側は高校側に相談をしていると思つていたんですけれど、あながちそうではないというお話を聞きましたので、それがとても残念で、そういう生徒の行き場やその後のことが非常に心配になるので、是非そんなことを含んで考えていっていただけたらと思つて発言しました。よろしくお願ひします。

望月室長 貴重なご意見ありがとうございます。  
いただいたご意見について、庁内検討委員会で課題として提起して、中学や高校の先生と検討させていただきたいと思ひます。

佐藤委員 お願ひします。

教育長 全国募集もなかなか数が増えていない現状もあるかと思ひますので、そういった点も含めてご検討いただければと思ひます。

#### 【原案どおり決定】

第13号 令和5年度山梨県立甲府工業高等学校専攻科創造工学科入学者選抜の基本事項について

〔説明〕 教育企画室

岡部委員 一般募集は、中等教育学校卒業と記載がありますので、県外からも可能ということでしょうか。

望月室長 はい。

岡部委員 分かりました。ありがとうございます。

#### 【原案どおり決定】

第14号 令和5年度山梨県立甲府工業高等学校専攻科建築科入学者選抜の基本事項について

〔説明〕 教育企画室

#### 【原案どおり決定】

【原案どおり決定】

2 報告事項

- (1) 令和 4 年度公立高等学校入学者選抜学力検査結果について  
〔説明〕 高校教育課

【了知】

- (2) 令和 4 年度公立高等学校入学者選抜学力検査結果活用ガイドについて  
〔説明〕 高校教育課

佐藤委員 毎年大変な労力をかけて現場のためにこういう活用ガイドを示していただくことは大変有効なことだと思います。今後現場に求めていく授業改善などが、あまり抽象的で網羅的だと、どうしても抱えきれないということがあると思いますので、できるだけ重点的にポイントを絞って、どういう力がまだ弱いのでこういう実践をとるようになりやすく伝えることが一番大事なかなと思います。箇条書きでも良いぐらいだと思います。まとめ方が難しいとは思いますが、学校がやってみようと思えるような伝達の仕方をしていかなければいけないと思います。現場が基礎基本をしっかりと押さえる中で、各教科で共通して、学校全体として取り組むことはできないのかなと思いました。学習内容と日常生活の関連の理解は理科でも言っていますし、数学では現実の世界と数学の世界の事象を共在化して考えさせると言っています。おそらく教育課程説明会や教科別の時にはもっと具体化して話しているとは思いますが。できるだけ中学生や保護者や先生方が見た時に、ポイントが分かるような授業改善の方向を求めていきたいなと思いました。せっかくのものなので、広く活用していきたい、使って欲しいなということも思いました。もう 1 つは、全国学力調査が 4 月に行われ、いずれ結果が 7 月に出ると思いますが、夏の先生方への説明会の時に、育てたい力を含めて、どういう所が足りないのかということも、もう少しアピールしていただければと思いました。国語は、実用的な文章の読みに少し力を入れて欲しいという方向でアピールしているのかなと思っていましたが、今回はたまたまなのか、やや文学に偏りがあるのかなとも思いましたので、その辺の検討も合わせていただくと良いと思いました。なかなか書く力について、自分の中の具体例を基にして考えを述べるのが、昔から弱いと言われてきているので、何か対策ができればと思います。教科書教材だけで足りないのであれば、手近にある例えば新聞などを、もう少し積極的に取り込むなど、学校全体でも取り組めるような改善の方策を少し提言してもらえればと思いました。

教育長 ありがとうございます。幾つか大事な指摘がございました。数年前に比べますとピックアップ問題のような形で見やすくすることなど、様々な工夫をしながら現在の形にたどり着いていると承知しているわけですが、できるだけ中学校や高校の現場で活用が進むように、ま御指摘いただいた点で改善が図れるところがあるかなど、検討していただければと思います。

松坂委員 去年も見て、非常に面白いなと私は思いました。これは中学校の改善にも繋がっているんですね。

高見澤課長 はい、中学でも見ていただいております。

松坂委員 どういうふうに授業を改善しているのか、その結果が分からないなと思いました。例えばこういうところをこういうふうに改善しようと授業改善に繋がったことが、翌年になり目に見えて改善されました、当たりましたということが分からないのかなと思いました。平均点については、グラフで去年どうだったということは分かるんですけど、例えば授業改善について主眼を置いて去年行ったところが、これだけ反映できたという結果があると、その授業改善のやり方が当たっていたんだなと分かるのではないかな。例えば、少し授業改善が的外れだったところは、さらに改善しようというような先生方との議論に使われたら良いのかなと思いました。それと、無回答が非常に多くて正答率がすごく低いもの、正答率も非常に高くても無回答が少なかったもの、中身と少し性質が違う答えあり生徒が問題を理解できていない内容が出題されているものなどが無いだろうか、一つ一つ、もちろんそういった分析もされているとは思いますが、年度別にその改善が分かるような報告があると、もっとその改善が正しかったかどうか見ることができるのではないかなということ少し考えました。参考にさせていただければと思います。

高見澤課長 ありがとうございます。  
難しいのが、これが入学の選抜に使う検査であるということで、同じ傾向の問題ばかり毎年出すわけにもいきません。学力調査等であれば類似の問題で全体の傾向がどうか調査できるのですが、複数の資料を読み取らせて考えさせる問題や、ただその分野を変えて同じような問題を出題していくなど、どうしても入試独特の配慮も必要になってきますので、そういったところの分析と大きな方向としては狙っているところはあるのですが、個々の問題の傾向について、毎年傾向がどうかというところは掴みきれないのが現状です。

降旗教育次長 今回の活用ガイドは入試問題に関するものであるため、それぞれの学校の傾向のフィードバックということは少し難しい面がありますが、毎年全国の学力学習状況調査は、小学校中学校を調査しているものでございますが、問題の狙いや作問の仕方は国も複数の資料を組み合わせた問題を考えていますので、その辺りのフィードバックもできるので、ご指摘いただいたことに着眼して実際に全国学調でどのような展開ができたのかということに活用することによって、授業改善の効果を各学校の現場の先生方がつかむということが十分できると思います。今の松坂先生のご指摘というのはそういったところで活用を図ることを十分考えていかなければいけない課題なのかなと思って聞かせていただきました。

松坂委員 活用ガイドについては、色々面白い取り組みをされているなど感心しています。

教育長 ありがとうございます。  
入試も学力学習状況調査も、そのデータを生かしながら、どう子どもたちの学力向上に繋がっていくかということが重要だと思います。また何か機会がありましたら、そのような視点で議論できる場面が設けられればと思いますし、松坂委員のお話にありましたように、折角提示したなら、評価するということが大事なことだろうと思います。

松坂委員 余談ですが、先日の1都9県教育委員会全員協議会はICT教育がテーマでした。色々な情報端末を広く知らせよう、使ってもらおうという第1ステップの段階だと思います。それが将来的にもっと進むと、このようなデータが教育委員会に沢山集まってくると思うんです。そのビックデータをどう生徒のために解析しながらやっていくかということが、もう間近に迫った課題になると思います。そういったデータをうまく集めて、勉強の在り方がこれで良いのかなどについて考える一つの題材として早く取り組まないといけないと思います。今後まずはGIGAスクール構想が第1ステップの段階だけれど、すぐにもうそこにビックデータが出てくると思うんですよね。そう考えると、データの活用を早めに行っていくべきではないかと。そんなことを考えています。

教育長 ありがとうございます。  
まさに先日教育次長と、この次はデータをどう使って、どう生徒の還元に生かしていくか考える必要があるのではないかと話をしていたところでございます。またそのようなことも議論できる場面を作りたいとも思いますので、よろしくをお願いします。

【了知】

### 3 その他報告

- (4) 令和5年度山梨県公立高等学校入学者選抜における前期募集選抜方法について  
〔説明〕 教育企画室

佐藤委員 1点お願いします。  
今年2月に前期入試が行われ、コロナ感染症で9人の生徒が欠席になったということを報道で知りました。その際、今までに例がないので、追試は行われていないということだったのですが、今後ウイズコロナの時代でその辺のことは庁内検討委員会でまた検討していただけるといいなと思っています。

望月室長 それは前期入試でしょうか。

佐藤委員 前期入試の追試ですね。かなり大変なことだとは思いますが、そこに賭けてきている子どもたちのことを思うと・・・。

望月室長 前期入試については、色々事情がございます。理由としては前期募集で追検査が行われなくても、後期募集があるということ。また、もともと平成30年度から追検査はインフルエンザなどを想定したものとなっておりますが、その時からやはり前期入試は、後期の機会があるということで、追検査は想定しておりません。また、前期募集の特性で、なかなか追試というのが難しいという現状がございます。問題の作り方などが、後期入試のように学力検査だけではありません。追検査が、高校における在校生の授業時間にも影響するというご意見もいただいております。絶対行わないというわけではございませんが、庁内検討委員会などでご意見を聞きながら、引き続き研究をさせていただきたいと思っております。

佐藤委員 よろしくをお願いします。

【了知】

### 4 その他

出席委員から、支援学校の生徒数について意見があった。委員からの意見の概要は次のとおり。

松坂委員 先ほど少し気になったのは、支援学校の生徒が年々増えているデータを前に見ましたが、今後支援学校の受け入れ態勢や生徒の数は、事前にそれを見越した計画があるのでしょうか。例えば今回の募集が、定員以上になるという状況は、もう想定されているんですよね。以前データを見たときに、どんどん増えている感じがあり、それはどうなのかなと気になったので。今回の議題にはあまり関係ないんですけど。

鷹野課長 現在増えている状況が実際にあります。ここ2、3年は小学部の子どもが増えておりますが、全員入学できる形での定員になっております。

松坂委員 ある程度、計画は、その読みはどこかでされているんですか。

鷹野課長 はい、市町村とも連携し入学予定者が分かっている中で入学選抜を行っております。

松坂委員 先生の対応も計画の予定範疇内に入っているということで、増加傾向にも対応できそうだということですね。

鷹野課長 はい、また確認をしていきたいと思っております。

教育長 おおよそデータのものを追っているわけですがけれども、新聞報道等でもございましたように、教室不足という問題など課題があることは事実でございます。またそういったことも含めてどう対応していくか、特別な支援が必要なお子さんは、どこかで必ず対応していかなければならないと思いますので、今後も対応について考えて参りたいと思っております。

松坂委員 ありがとうございます。

[ 教育長閉会宣言 ]

以 上